

3年生社会科資料集

あざみ野の  
つりがわり



横浜市立あざみ野第一小学校

あざみの  
うつりがわり

## は し が き

平成6年10月22日(土)、横浜市立の全小中学校では、「いきいきいまっ子の日」として、いろいろなとりくみをしました。わがあざみ野第一小学校は、創立15周年を迎えている年でしたので、記念式典と、集会および地域環境の清掃活動をして、いきいきはまっ子の日の主旨に込めました。

あざみ野第一小学校は、このあざみ野の地を愛するシンボルの施設としての学校でありたいと考え、小動物を飼育し、草花を栽培して、未来を荷負う子供達に、生命を大切にすることを育む愛の灯を点しつづけています。この幸せな子供達の学習には、何一つ不足するものはないのですが、21世紀を創り出すための主体的な学習をしていくために、どうしても必要とされるものが一つありました。それは、子供自らが読み進められる「3年生の社会科資料集」です。

3年生の社会科資料集は、各小学校ごとに、その地域の歴史的事実を集積して学ぶ、3年生にはなくてはならない資料ですが、本校では、子供達自身で読み進められるものとしては未整備でした。そこで、創立15周年を記念して、子供達に実質的な贈り物をしようということになり、地域の方々や、父母、教職員の力添えにより、「あざみ野のうつつりかわり」として、資料集ができてきたのです。

この資料集をもとにして、あざみ野の歴史をくわしく知り、学習した子供達が主体的に「これからのあざみ野」を創造してくれば、いちばんいよいよ勉強ができたことになります。あざみ野の地が、青葉区とともに発展していくことを祈念しながら、はしがきとします。

青葉区が誕生した日に記す。

平成6年11月6日(日)

横浜市立あざみ野第一小学校校長 八木康利

## 2. あざみ野のうつりかわり

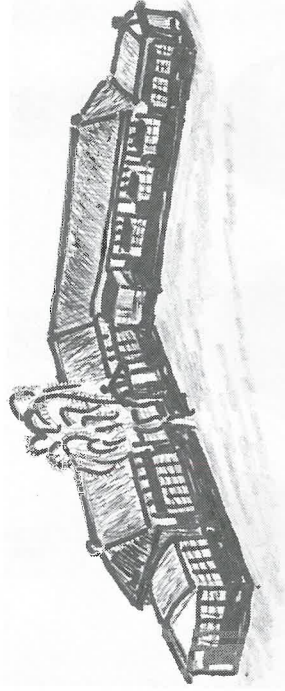
- (1) あざみ野地区のうつりかわり (年表) ..... 21
- (2) あざみ野、今とむかし
  - ① むかしの山内地区 ..... 30
  - ② むかしと今のあざみ野 ..... 32

## 3. 資料

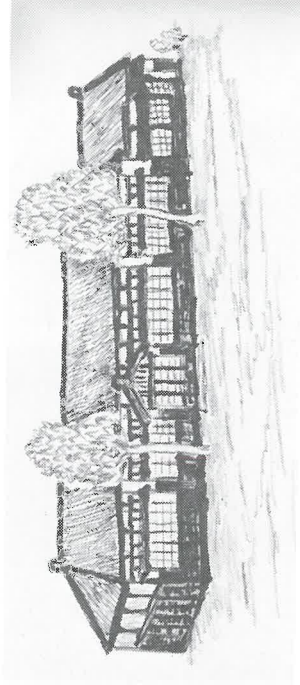
- (1) むかしの道具 ..... 34
- (2) むかしのあかり ..... 35
- (3) 乗り物の今とむかし ..... 36
- (4) むかしさがし ..... 39
- (5) 田園都市線の開通 ..... 41
- (6) 田園都市線の利用の様子 ..... 42
- (7) 市営地下鉄の開通 ..... 43
- (8) 吉村さんの話 ..... 44
- (9) 関東大しんさい ..... 46
- (10) 横浜大空しゅう ..... 47
- (1) 学童そかい ..... 48
- (2) 読み物資料 ..... 49
- (13) 山内地区・人口の移り変わり表 ..... 50
- (14) 新聞記事より ..... 51
- (15) 青葉区のみどころ ..... 52



## ② せんそう前の学校



思い出の山内第一尋常高等小学校 徳江善衛氏 画



思い出の山内第二尋常高等小学校 徳江善衛氏 画

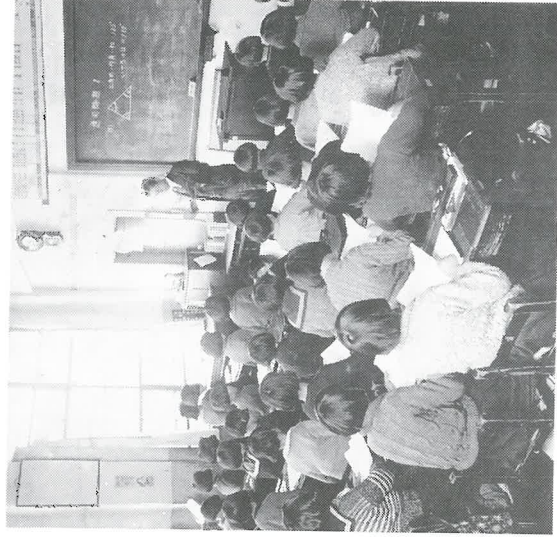
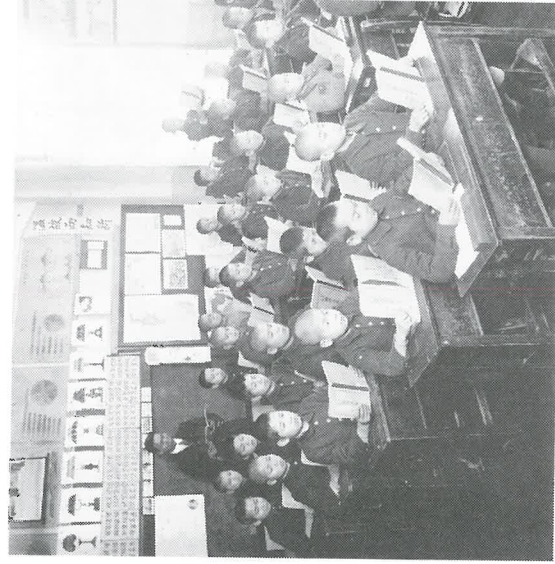
### ○ 男組・女組（国民学校）

戦前の小学校（国民学校）では、ふつう、男子と女子は別々の教室でした。今のようないかな男女共学ではなかつたわけです。それは、男と女の生き方がことなり、その役わりがちがうという考えにもとづいたものでした。

男子が工場の時間にもいい飛行機を作り、女子がさいほうをするというふうに授業の内よりもいくらかちがっていました。

尋常科は4年間、高等科も4年間でしたが、ぎむ教育は尋常科まででしたので、高等科まで進む子は多くありませんでした。とくに女子は、たいへん少なくなかったようです。

また、そのころは学校へ行っていない子もいたので、役所が、なるべく子どもを学校へあげなさいと言っていました。



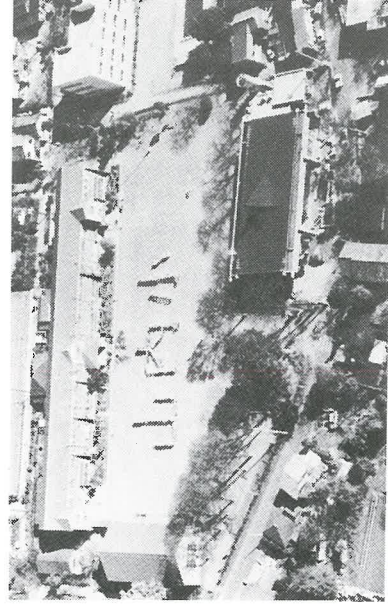
#### ④ せんそう後の学校

昭和22(1947)年度から、国民学校は小学校とよぶことになりました。

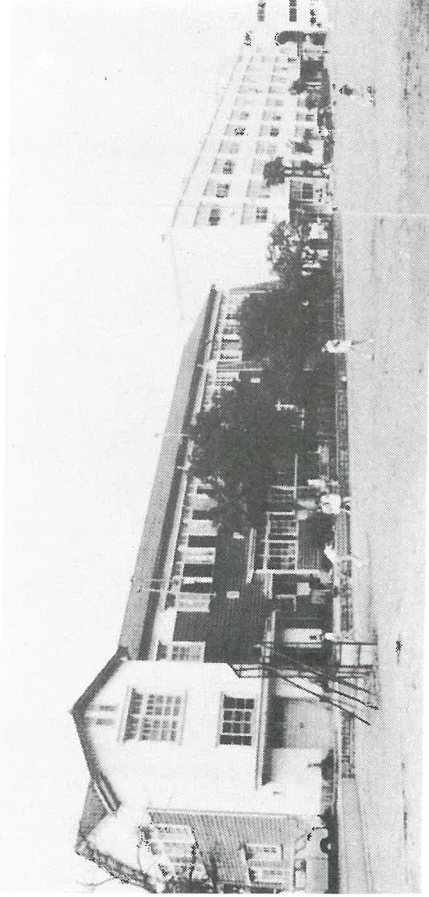
ぎむ教育も小学校六年、中学校三年の「六・三制」になったうえ、男女共学になりました。

ノートもえんぴつも、着る服もじゅうぶんではないだったので、何でも大切に使いました。

また、このころからアルミのコップに脱脂粉乳のミルクとコックペーパーの給食がはじまりました。牛乳からクリームをとりのぞいた脱脂粉乳は、あまり味のいいものではありませんでした。



昭和42年ごろの  
山内小学校です

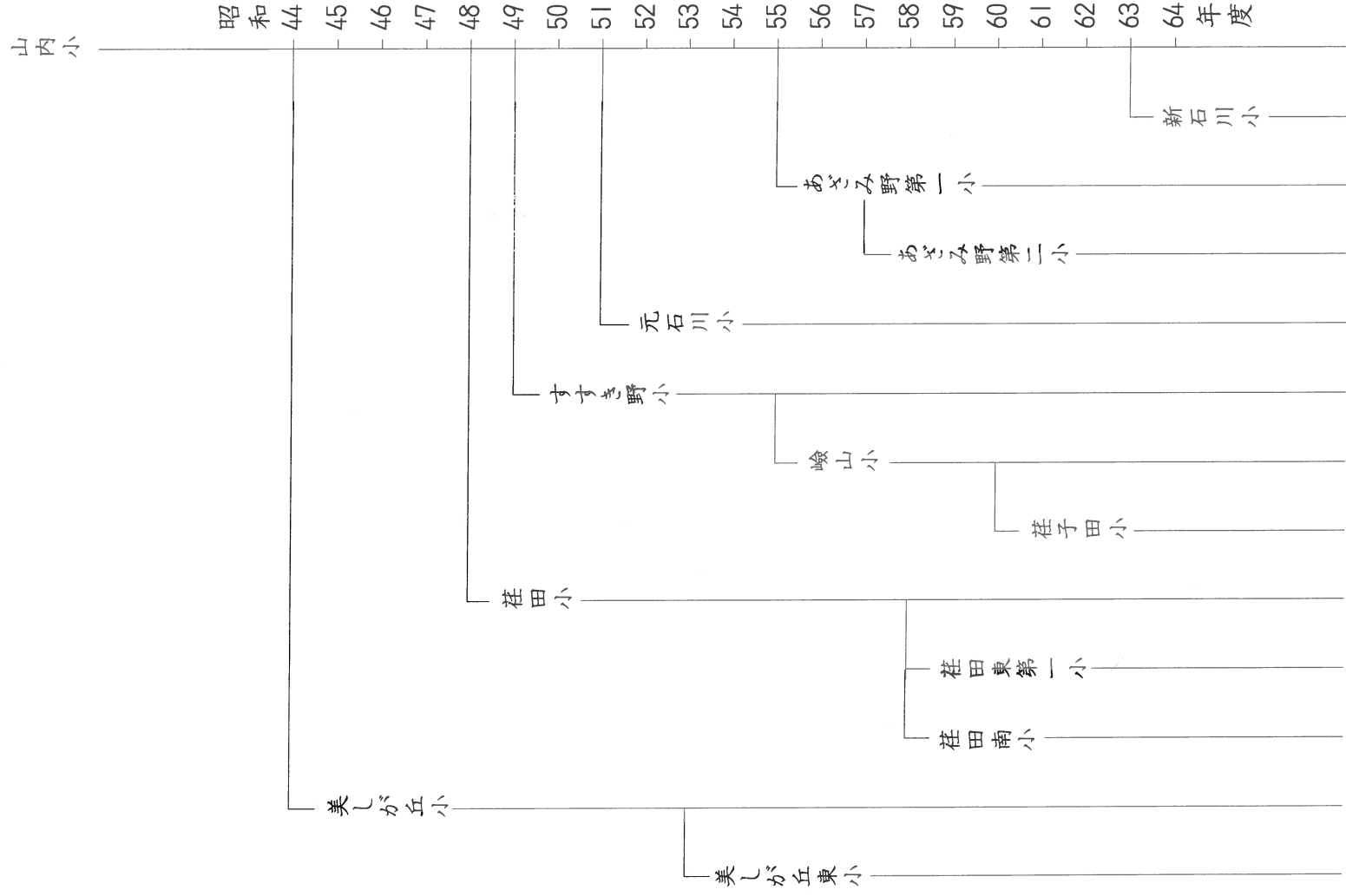


昭和54年ごろの山内小学校です。まだ木ぞう校の半分残っていましたが、右に鉄きん校まわしが見えています。



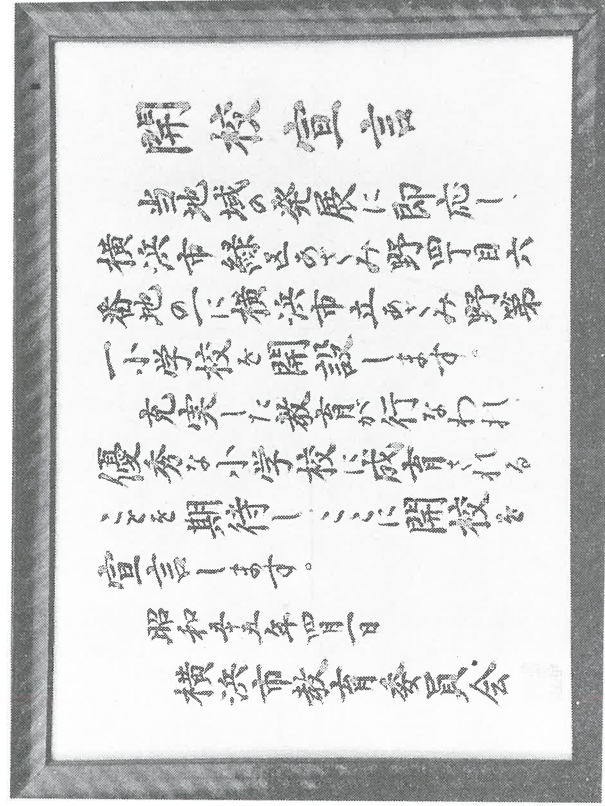
新しい教科書をうけとる子どもたち

## ② 山内小学校関係連校





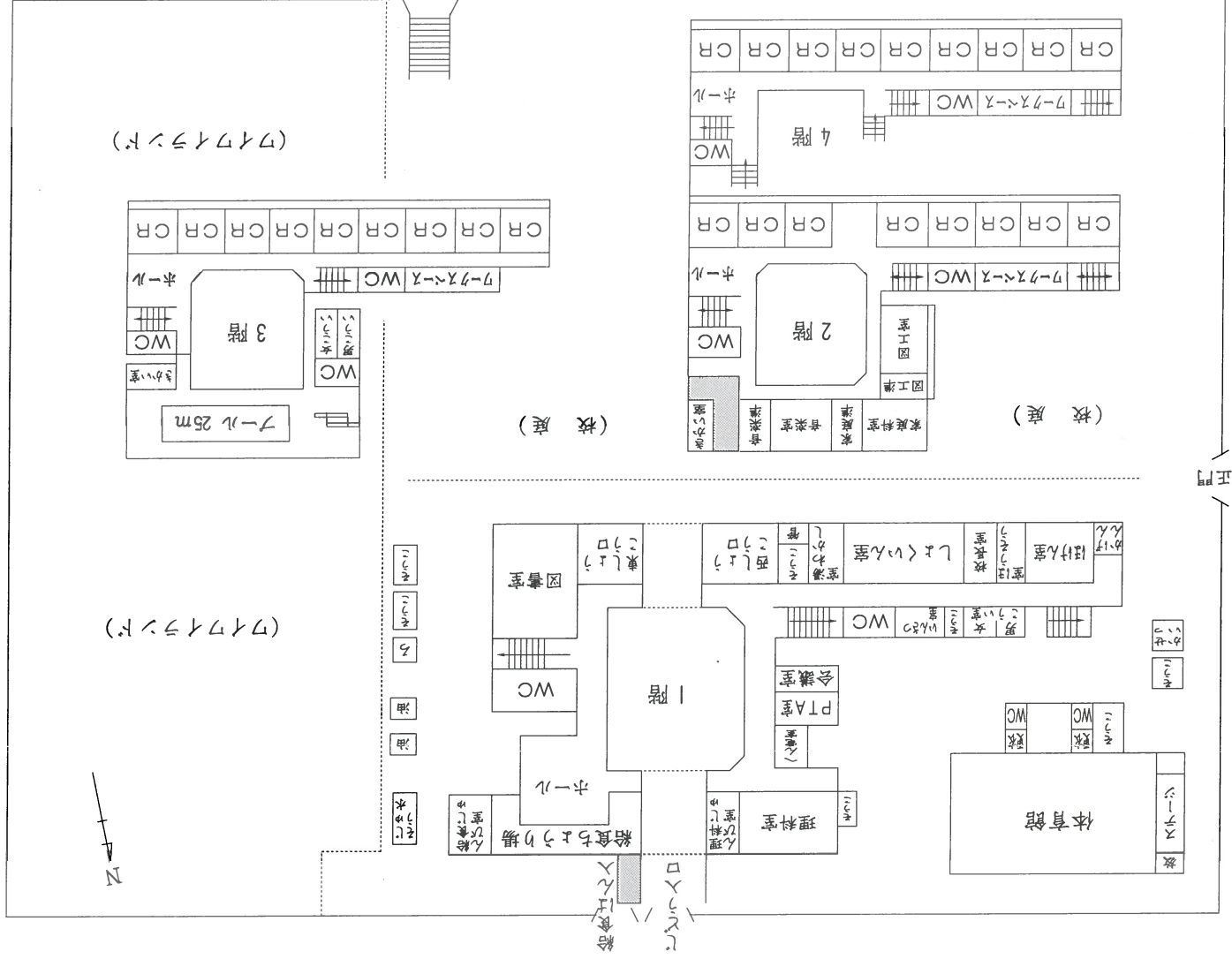
② 開校宣言



開校3年目のあざみ野第一小学校



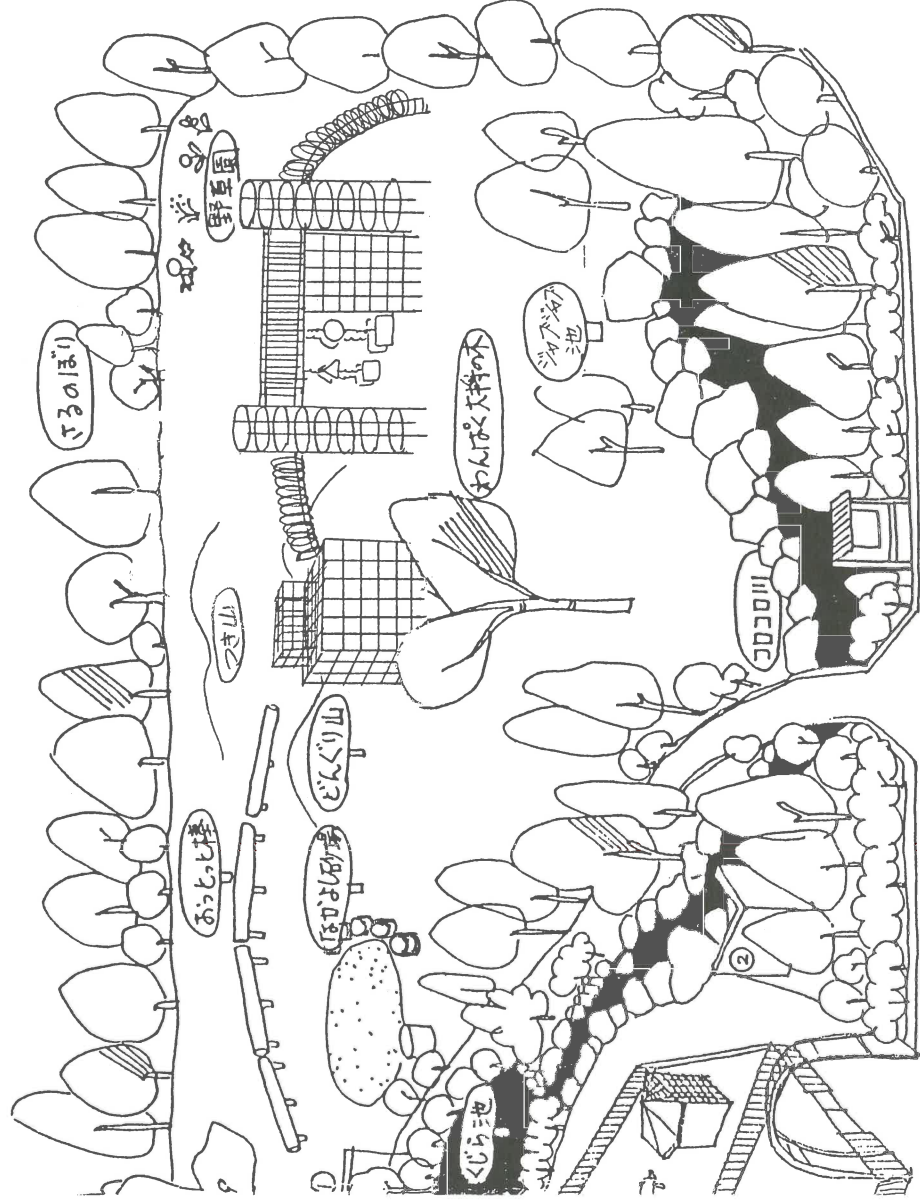
④ 学校を上から見た図



CR→教室の意味

⑥ 今の学区



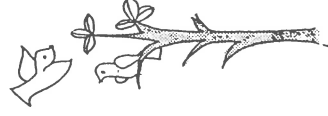
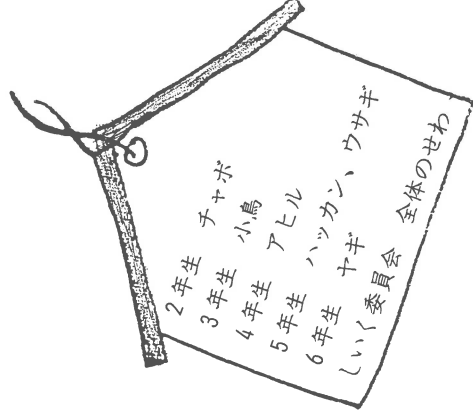


植物

大木になる木、実のなる木、  
めずらしい野草など、100しゆ  
るい、500本以上あります。

動物

ヤギ、チャボ、小鳥、アヒル、  
ハッカシ、ウサギ、キンケイな  
ど。二年生以上の子供達が動物  
達の世話をしています。



## 2. あざみ野のうつりかわり

### (1) あざみ野地区のうつりかわり

1889年(明治22年)、石川村と荏田村が合わさって、山内村が誕生しました。しかし、そのころは、横浜市中ではありませんでした。「神奈川県荏田郡山内村」というのが、みなさんが今住んでいるあざみ野

地区の元の名前です。

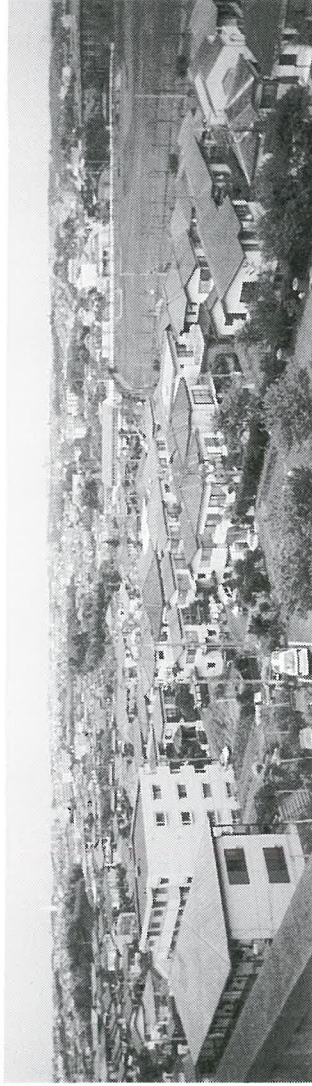
1939年(昭和14年)に、横浜市に入られ「横浜市港北区元石川町ならびに荏田町」となりました。

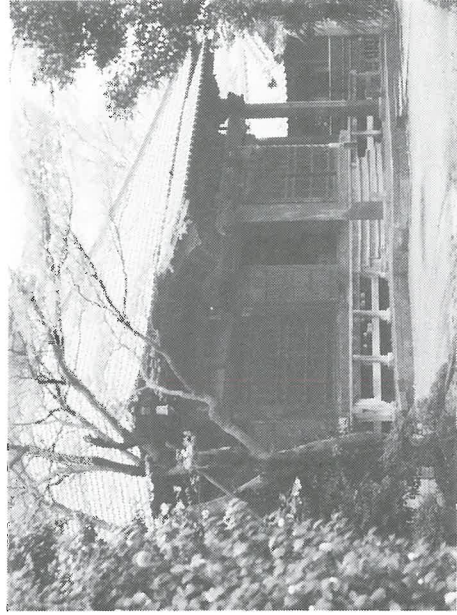
明治・大正・昭和の山内村の人々の生活はあまり大きくは変わりませんでした。しかし、1969年(昭和44年)田園都市線の開通で、大きくばなじゅうたぐ地として開発されていく事になったのです。

たまプラザのある美しが丘から進められてきた開発は、どんどん広がっていき、1976年(昭和51年)には、元石川町から「あざみ野」が誕生したというわけです。

その時期、横浜市の人口も大きくふえてきたので、港北区から分かれて新しい区をつくることになりました。こうして新しい区「緑区」が誕生したのです。港北区から分かれた時の緑区の人口は、約12万人でしたが、げんざい(平成6年)では約45万人と大きくふえてきました。中でも、みなさんが住んでいる「あざみ野」をはじめ、田園都市線ぞいの地区は人口ぞうかが急げきで、横浜市中でもゆびおりの人口きゅうぞう地区になってきました。そこで、1994年(平成6年11月)に緑区ととなりの港北区から、新しく「青葉区」と「都筑区」が誕生しました。みなさんの住んでいるあざみ野は、緑区から青葉区へとまりました。

いじょう、山内(あざみ野)地区のうつりかわりを、かんたんにのべてきました。このあともう少しくわしく「うつりかわりのようす」をみていくことにしましょう。

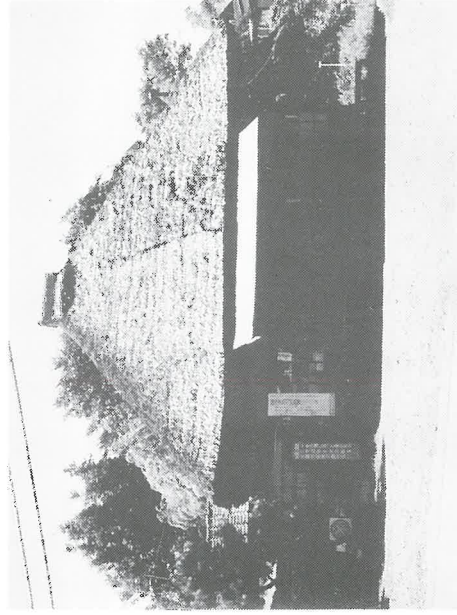




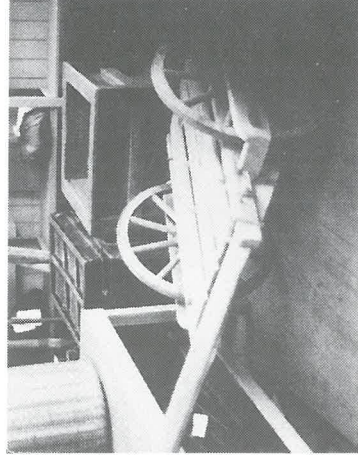
荇田の眞福寺 (旧観音堂)



陳願堂入り口の金作地蔵  
昭和4年までじゅ業をしていました。



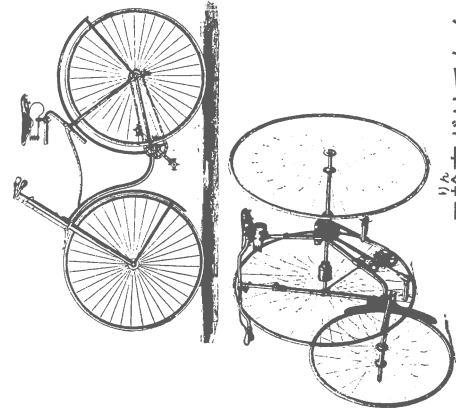
かつての保木薬師堂



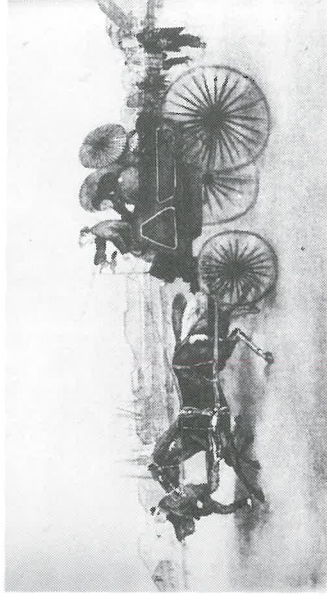
だいはち車 (にもつをのせて運ぶ)



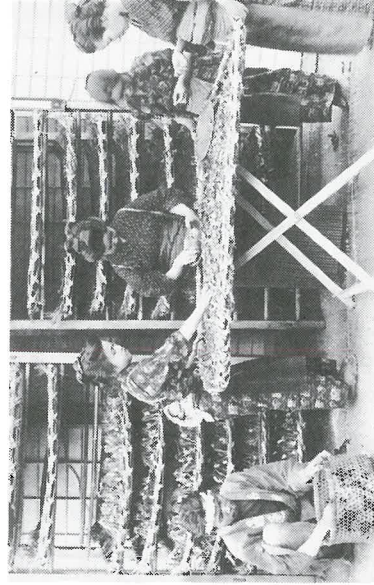
満願寺山門



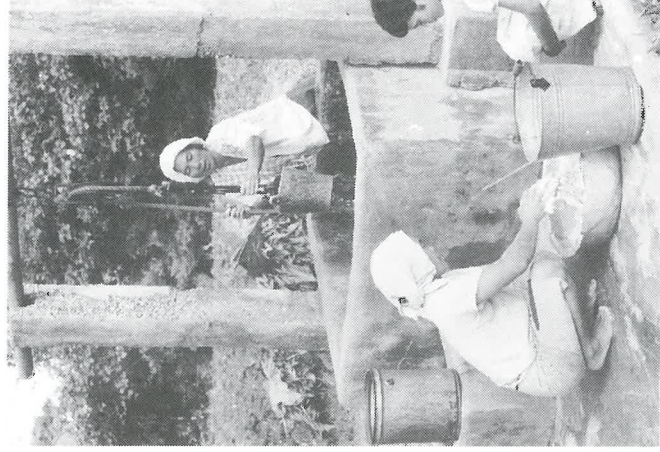
二輪車だけでなく、  
三輪車もありました。



のりあい馬車



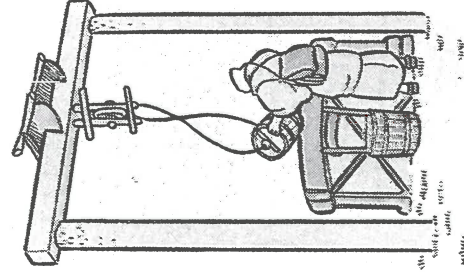
明治時代のようさん（カイコのかをかって、まゆをとるしごと）農家のようす。小さい子も手つだいます。



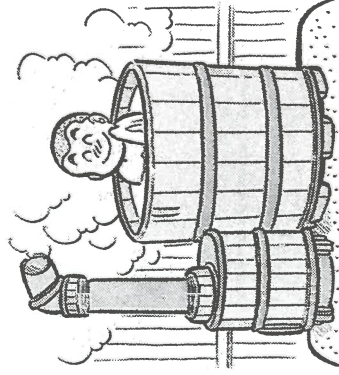
つるべ井戸

近所の人が集まって、つるべで水をくみ、せんたくをしています。

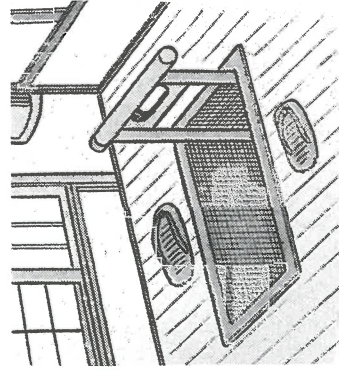
むかしの家では…



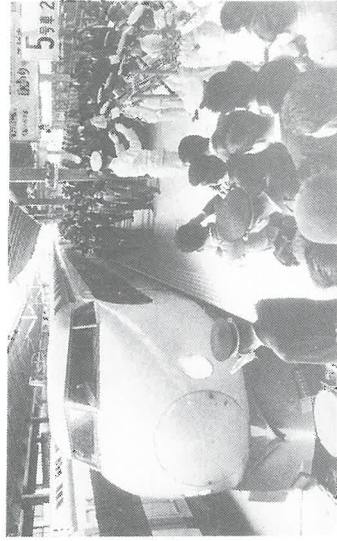
今のような水道は、まだ発はたつていなかっただので、ふつうの家では、家で使う水は井戸にくみに行った。



おふろはこんな、かんたんなものだった。家にふろのない人はおふろ屋ふろやさんに行っていた。



トイレも、今のようながに水でジャーッと流ながす水せんととイしじまじやない。くみ取り式だよ。



オリンピックと同じ年に、東海道新幹線が開通。東京から新大阪までやく4時間で行けるようになりました。



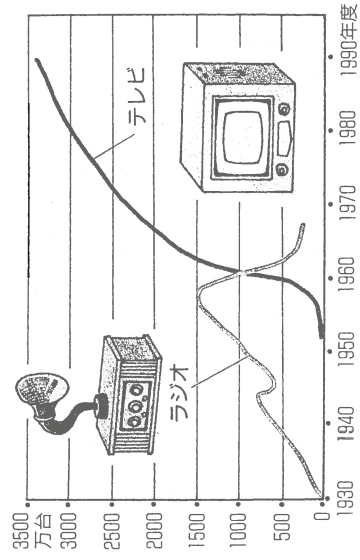
1945年5月の横浜大空しゅう



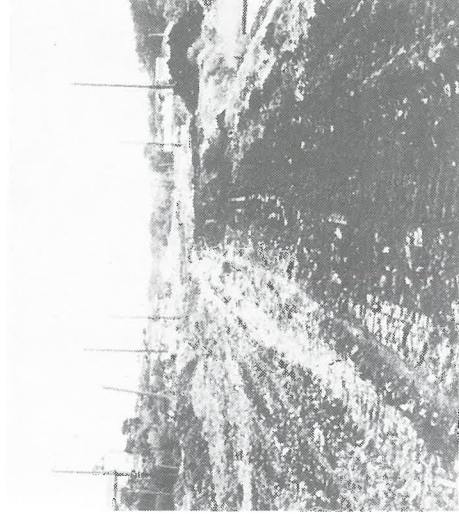
テレビ放送が始まる

さいしよはねだんが高く、買う人が少なかつたので、街頭や飲食店におかれたテレビに人々が集まりました。

ラジオ・テレビの受信契約数 (NHK調べ)



1960年にはカラー放送が始まり、このころから一家に1台、テレビがおかれるようになりました。



国道246号線の工事 (昭和37年)



国道246号線 (長津田町)



# 青葉区たん生

平成6年11月6日

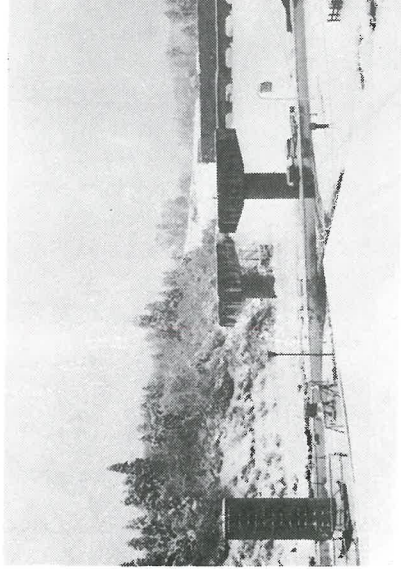
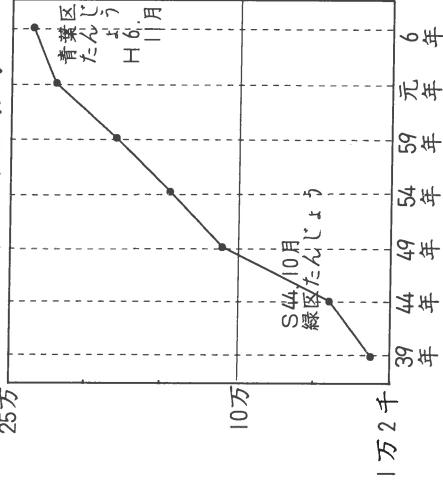


青葉区  
の  
ママ  
マーク  
です

## 「青葉区」の区名は—

- ・木々にかこまれたうつくしい街のイメージ。
- ・わかいい芽がいきいきと育つように、しょう来に向けるのびやかに発展する区でありたいとの願いをこめてつけられました。

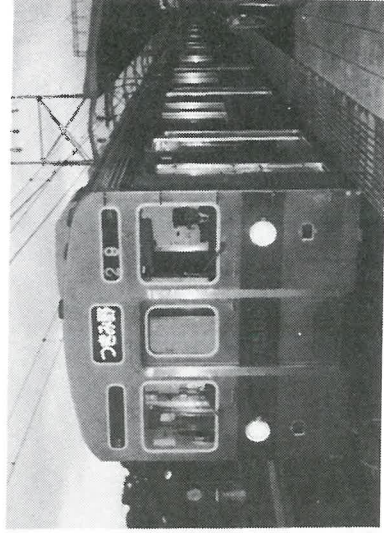
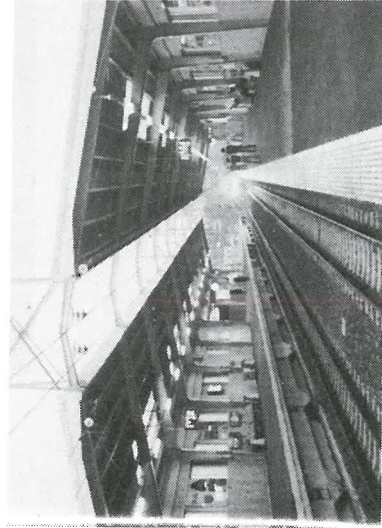
## 人口のうつつりかわり



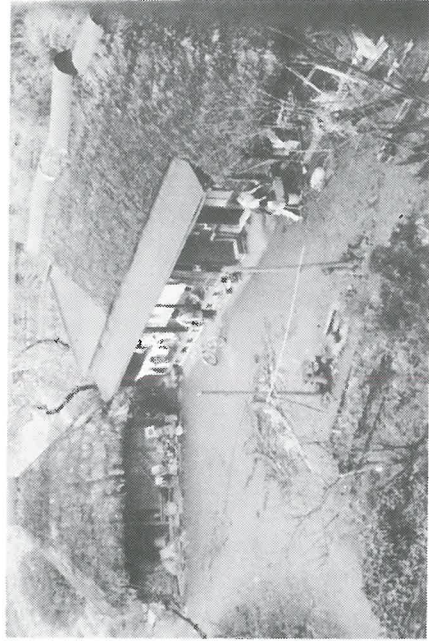
駅前 246 号と工事中の東名高速道路  
(昭和 42 年ごろ)



工事前のあざみ駅ふきん



あざみ駅オープン1番下り列車 (昭和 52 年 5 月 25 日)



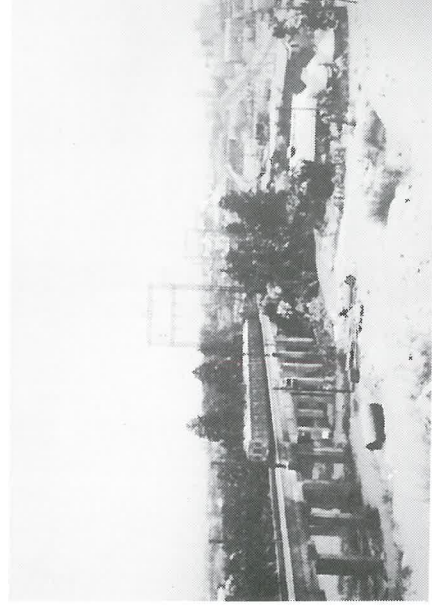
下和田よべられた金子富雄さんの家。  
げんざいダイオー第一第2売り場。

(昭和39年ごろ)

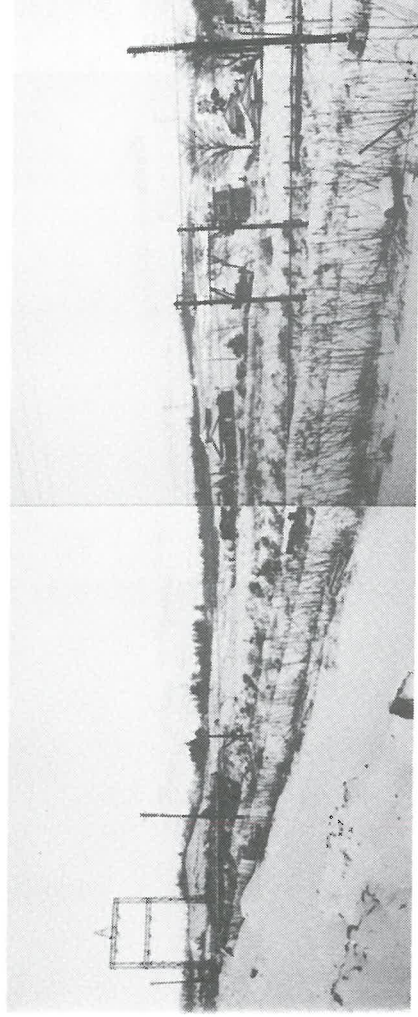


あざみ野一丁目の丘からたまプ  
ラーザ方面に向かって。まん中  
の低いところが田園都市線。

(昭和38年)



駅東側大正堂ビルよてい地。しよう面  
は、小川さんの家。電車は二両へんせ  
い。(昭和49年)

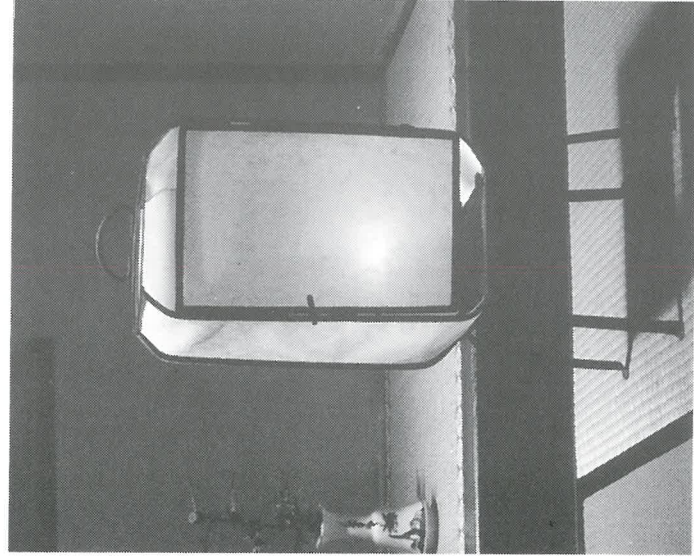


あざみ野駅西がわあたり (昭和49年)

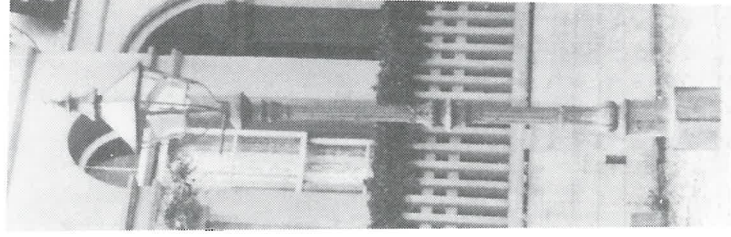


平成6年のあざみ野しゅうへん

(2) むかしのあかり

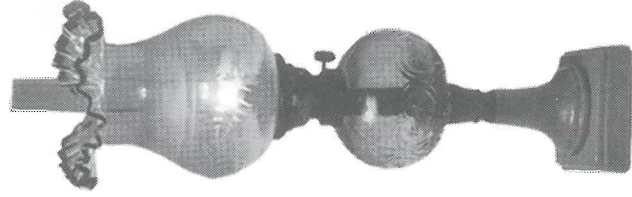


あんどん

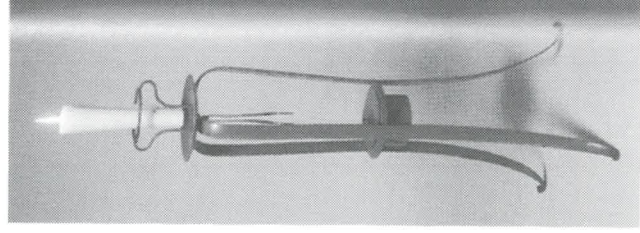


ガス燈

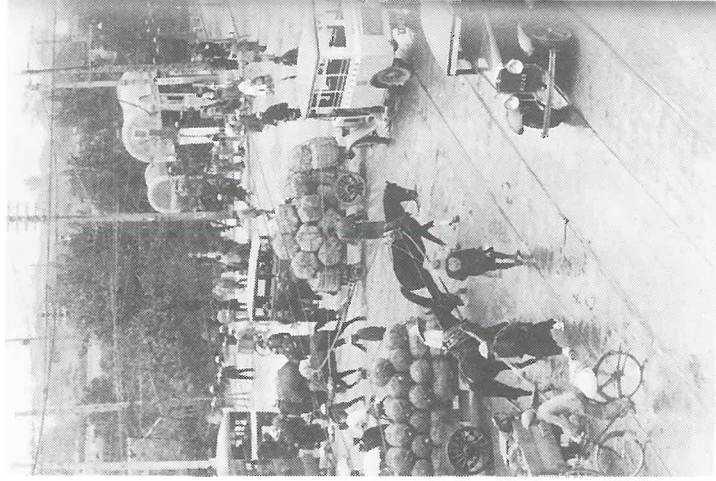
本町小のある場所は、むかし日本でさいしよのガス会社があつたところどろです。明治5年、日本ではじめてガス燈どろのともったところどろです。



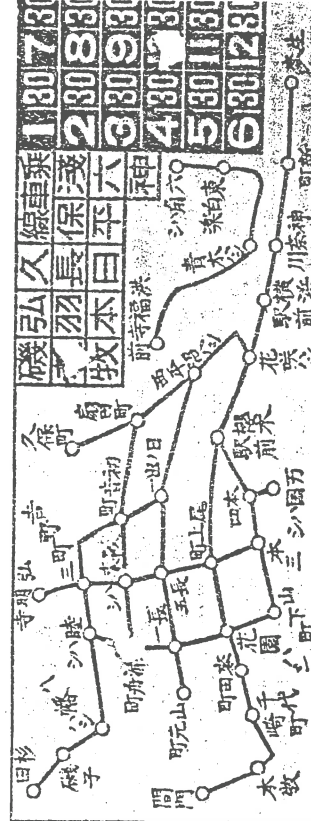
ランプ



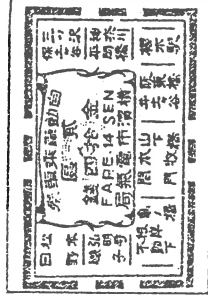
しよく台



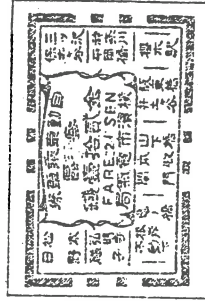
4/12  
5:30 9:30  
6:30 10:30  
7:30 11:30  
8:30 12:30



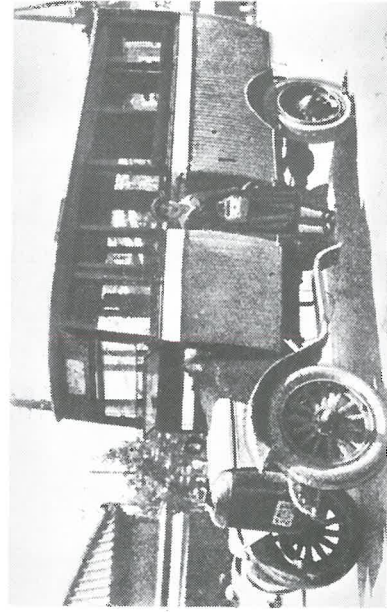
昭和のはじめの市電のきっぷ



(2区 14銭)



(3区 21銭)



昔の市営バス

昔の市営バスのきっぷ

#### (4) むかしさがし

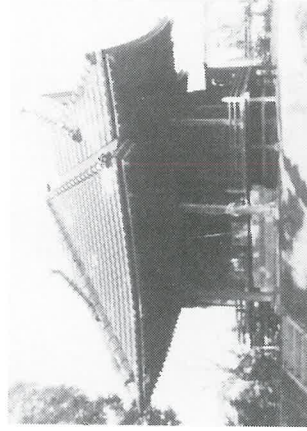
##### ① 文化の中心 驚神社

驚神社は、今からおよそ1,200年前、奈良時代に建てられたといわれています。平安の昔、この付近は朝廷に馬を献上していた「石川の牧」のあったところです。村の人は馬を愛し敬まっていたので、「敬」・「馬」

の二字が一体となって「驚」(おどろき)神社となりました。驚神社が文化の中心といわれるのは、毎年秋のお祭(現在は10月10日)に、桂子田・船頭・平川・宮元・保木・牛込といった地区から、獅子舞や大太鼓・みこしなどが驚神社へくりこむからです。

秋にお祭が行われるのは、昔はこの日を境に農繁期に入るといいう前祝いで、もあつたためです。どこの農家でも朝早くから赤飯・煮物・てんぷら・煮魚などの料理を作り、祝ったそうです。

##### ② 平川神社



平川神社

平川は、今の美しが丘4・5丁目あたりで、昔は、早濑川の左右に水田が開け、戸数60戸あまりの静かな田園地帯だったということです。

神社の起源は、はっきりしなないのでありますが、昔、この地に野猿が多くいて田畑をあらしました。こまつた村人は、猿をつかまえました。が、当時、猿は神の使者とされていたので、猿のたたりや、神の罰をおそれて、この社をつくたという伝説があります。

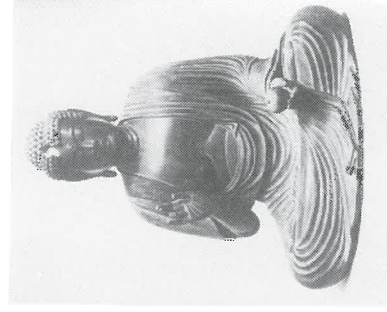
##### ③ 保木の薬師如来像

保木の薬師堂の本尊には、高さ82.5センチメートルの、ほぼ人と同じ大きさの薬師如来像が鎮座しています。この仏像は、ヒノキの寄せ木造りで、ウルシぬりしあげ、昭和58年に、神奈川県重要文化財に指定され、県立博物館に保管されています。毎年9月12日だけは、保木の薬師堂に帰り、護摩(真言宗のおいのり)がたかれます。

この薬師様は、とくに眼の病氣にご利益があると、昔から深い信仰が、よせられていたそうです。



驚神社の祭



薬師如来像

## (5) 田園都市線の開通

年月日	おもなできごと
昭和18年7月	二子玉川園～溝の口間が開通する。
昭和28年1月	「多摩田園都市」構想が発表される。
昭和41年4月	溝の口～長津田間が開通する。
昭和42年4月	子ども国線が開通する。
昭和43年4月	長津田～つくし野間が開通する。
昭和47年4月	つくし野～すずかけ台間が開通する。
昭和51年10月	すずかけ台～つきみ野間が開通する。
昭和52年4月	渋谷～二子玉川園間（新玉川線）が開通する。
昭和52年5月	あざみ野駅が開業した。
昭和54年8月	田園都市線・新玉川線・営団地下鉄半蔵門線の3線が、 直通運転をはじめる。
昭和59年4月	つきみ野～中央林間間が開通する。 (田園都市線全線開通)

田園都市線 たまプラーザ駅時刻表  
1966年(昭和41年)

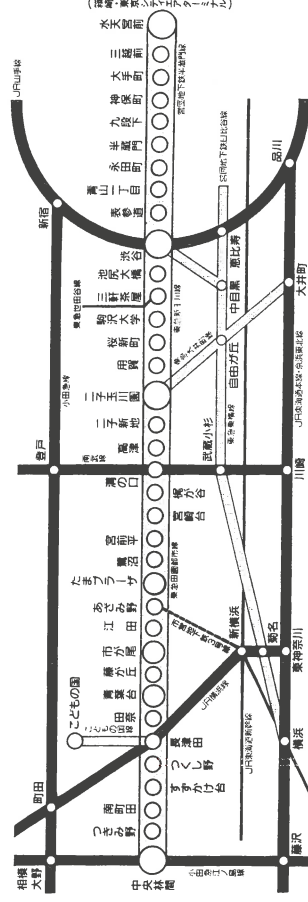
大井町方面(上り)		長津田行(下り)	
時	5 32 59	時	5 32 59
49	21 6 18 30 38 55	49	21 6 18 30 38 55
52	39 26 13 0 7 10 23 37 50	52	39 26 13 0 7 10 23 37 50
57	44 31 18 5 8 3 16 29 42 55	57	44 31 18 5 8 3 16 29 42 55
51	43 25 10 9 10 20 33 46	51	43 25 10 9 10 20 33 46
49	33 17 1 10 5 19 34 50	49	33 17 1 10 5 19 34 50
53	37 11 5 11 6 22 38 54	53	37 11 5 11 6 22 38 54
59	41 25 9 12 10 26 42 58	59	41 25 9 12 10 26 42 58
45	29 13 13 14 30 46	45	29 13 13 14 30 46
49	33 13 1 14 2 18 34 50	49	33 13 1 14 2 18 34 50
48	33 19 4 15 6 22 38 54	48	33 19 4 15 6 22 38 54
52	36 20 4 16 6 21 37 53	52	36 20 4 16 6 21 37 53
56	40 24 8 17 9 25 41	56	40 24 8 17 9 25 41
34	28 11 18 7 13 29 45	34	28 11 18 7 13 29 45
48	32 16 0 19 1 17 33 49	48	32 16 0 19 1 17 33 49
52	36 20 3 20 5 21 37 53	52	36 20 3 20 5 21 37 53
52	40 24 7 21 9 25 41	52	40 24 7 21 9 25 41
52	28 6 22 5 27 47	52	28 6 22 5 27 47
59	38 17 23 14 34	59	38 17 23 14 34
22	24	22	24

あざみ野がげんざいのような町に発てんしたのは昭和41年に東急田園都市線が開通してからのことです。川崎・東京方面への通きんが楽になったので、家がたくさんたつようになり、人口も急げきにふえてきました。



あざみ野駅

田園都市線・新玉川線・地下鉄半蔵門線路線図







した。近くてべんりになった。

- 区くせいの時に土地を用意して出張所<sup>しゅちやうじょ</sup>をうつして山内支所<sup>やまうちしじょ</sup>となった。
- その時、町の人のきぼうで図書館・地区センター<sup>ちくわ</sup>ができた。
- 山内支所はその後、市ヶ尾にうつり北部支所<sup>ほくぶしじょ</sup>となった。

(4) 昔の家の数とそのしごと

- 中村、牛込、船頭<sup>せんとう</sup>といったぶらぐがあり約30けんぐらいしかなかった。
- 今にぎやかな二丁目、三丁目には家はほとんどなかった。
- そのころの家のしごとはのうぎょうであった。ひまの時はかいこをかったり、まき、すみを作ったりしていた。

(5) 米づくりのしごと

なわしろ……………細長く土をならしてたねをまいた。

なえどり……………おもに女の人がなえをぬいてたばにした。

田うない……………人・牛・馬で田をたがやす。

田の草どり……………夏のあつい日に手や機<sup>はた</sup>かいを使って草をとる。

いねかり・かげぼし……………いねをかってたばね木や竹で作ったしげにかけて、かわかす。

いねき・ほしもの……………いねをくきからはなしてもみにしてむしろにひろげてかわかす。

もみすり・けんさ……………もみのかわをどりたわらにつめて、けんさをうけ、とうきゅうをきめた。

• 麦、さつま作りのしごと

昔あつたあざみ野<sup>あざみの</sup>の行事

• さいのかみ……………おふだやおおだるまの古くなったものをもやした。

• 初<sup>はつ</sup>うま……………おいなりさまをまつた。

• 道ぶしん……………村の道を自分たちの手でなおした。

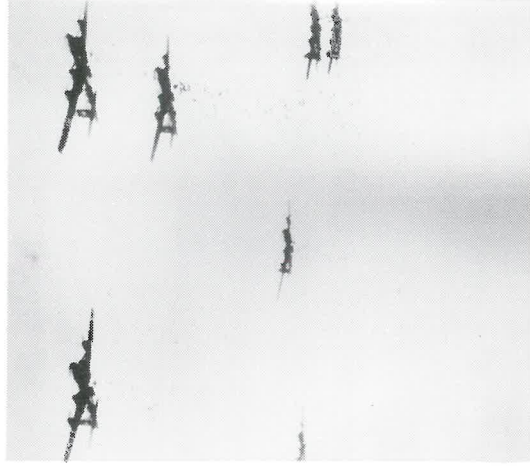
• あまごい……………雨がふらない時に神様におねがいをした。

昔の子供のくらし

- 家の手つだい……………はたけしごと、すいじ、おつかい、ふるもし
- 子もり……………きょうだいが多くて上の人がめんどうをみた。
- 家ちくのせわ……………にわとり・ぶた、など

吉村勝太郎さん→美しが丘にお住まいの  
元横浜市小学校校長先生です。

## (10) 横浜大空しゅう



○昭和14年にヨーロッパで戦争が始まり、昭和16年には日本も開戦し第二次世界大戦となりました。はじめのうちは、遠い海のかなたで戦っていましたが、昭和17年4月に横浜ははじめに空襲しゆうされま

した。  
○昭和20年になると空襲しゆうがひどくなり、4月には、鶴見区の工場地帯の72町、5月24日には各区にわたって55町、そして5月29日に一番大きな空襲を受けま

した。7区176町が焼かれて焼け野原となりました。

・昭和20年（1945）5月29日（月）

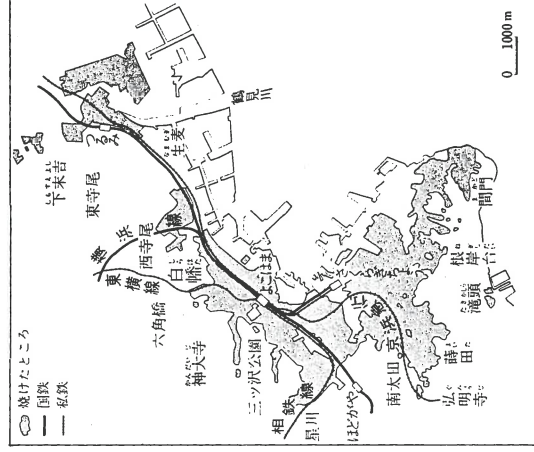
午前9時20分頃開始。

天気快晴・風なし

・マリアナ基地よりすごい編隊で空一杯に広がってやってきました。

・その数 { B29ばくげき機 = 517機

          P51戦とう機 = 101機



戦災で焼けたところ



68分でかいつめつした横浜の町

○空しゅうは川崎・横須賀・小田原・平塚もおそいました。そして、ますます苦しくなり、ついに、昭和20年（1945）8月15日に日本は降伏し、戦争は終わりました。

## (12) 読み物資料 〈おとなの人に読んでもらいましょう〉

〈関東大震災〉 笠原 久蔵（当時7歳）

その日は第二学期の始業式で、白がすり、袴に帽子をかぶって帰宅。家の前の池や川でドジョウを獲っていたら、ゴーツツという地鳴りとともに地面が大きく揺れ、獲物を入れていたタライごと池の中に落ちた。わが家はかなり古かったが、倒壊はまぬがれ、少し傾いた程度ですんだ。近所の草屋根の家がほとんど潰れていた。

校舎も半分以上壊れ、近くの寺で授業が再開されたが、そんな状態が1年くらい続いたと思う。市内の親類で家をなくした人たちがうちらに身を寄せていた。

数日間は、夜になると、市街地にあたる東の空が真っ赤に焼けるのが見えた。とても恐ろしかった。

〈横浜大空襲〉 おは 饗場 ハナ（当時30歳）

20年4月15日深夜、空襲警報が鳴った。まもなくしてドスンという音がして、玄関先が燃え出した。夫は横須賀に出征していたし、早く火を消さなきゃとあせったけど、姑に「命のほうが大事なだから」と言われて、小学1年生と3歳の子供を抱えて、4人で前の田んぼに逃げた。防空頭巾と薄いふとんをかぶって、水びたしの田んぼに伏せて、B29が遠のくのを待った。子供は、「お口に水がはいると言って泣いた。

そのうち、町内会の方が2人助けに来てくれた。私は裏庭の池から水をくみ出し、3人でバケツリレーしてやっど火を消しとめた。モンペはぐっしょり、いつのまにか池の中にはいつていた。夢中だった。家の燃え始めた時の恐怖といったらなかった。

〈人も建物も疎開、そして勤労動員〉

戦争が進展するにともない、市民生活が抱える困難と矛盾は一層進行する。昭和19年（1944）4月21日に、鶴見区内で最初の建物疎開が実施された。空襲のさいに類焼、延焼を防ぐために空地を作り出すことを目的とし、「疎開」という名のもとに建物を壊す措置である。住み家を破壊された人びとは、行くあてもなく途方に暮れるのみ。なすすべもなかった。

子供たちの疎開も行われた。防空・防火活動の際に子供たちが足手まといになることをさけ、つぎの若い世代を「人的資源」として確保するためである。幼い心身には、苛酷な体験であった。疎開したある児童の手紙によれば5時30分の起床から夜8時30分までのあいだ、スケジュールが細かく定められている。月に8回の入浴、自習ばかりの勉強はともかく長期に及ぶ集団生活と食料不足は、それぞれの心に大きな傷を残した。一方、中等学校以上の学生は、男女問わず勤労動員をかけられ、あちこちの工場で働かされていた。



## 参考引用文献

- 変わりゆく古里写真集（根本藤吉） ぐらしの移り変わり（学研）  
歴史の舞台を歩く（相澤雅雄） 庶民のくらしと道具（学研）  
田園小史（緑区役所北部支所） 交通・通信の歴史（ポプラ社）  
青葉区政概要（青葉区役所） 科 学 王（福武書店）  
わたしたちの横浜（市教育委員会） 一億人の昭和史（毎日新聞社）  
よこはまの歴史（〃） みどり新聞（みどり新聞社）  
図説・横浜の歴史（横浜市） 多摩田園都市（東京急行電鉄）  
市民グラフヨコハマ（〃） 創立十周年記念誌「あざみ」  
横浜もののはじめ（横浜開港資料館）考  
F・べアト幕末日本写真真集（横浜開港資料館）  
資料が語る横浜の百年（横浜開港資料館）  
横浜のあゆみ（横浜開港資料館） あざみ野第二小記念誌（あざみ野第二小）  
学校生活の移り変わり（学研） わたしたちの嶮山（嶮山小）

## 編集委員

学 校 長	八 木 康 利	副 校 長	三 国 七 朗		
教 職 員	北 嶋 節 子	中 條 浩 美	今 泉 て つ み	石 澤 久 米 子	
	原 田 淳 子	寺 本 幸 子	宇 田 川 笑 子	石 原 正 子	
	石 沢 正 光 子	山 下 敦 子	佐 鳥 美 砂 子	竹 内 雅 己	
	黒 田 広 子	迎 田 瑞 子	根 市 美 恵 子	山 下 浩	
	長 谷 川 寛 進	田 西 野 桐 片 加	浜 城 所 澄	荒 卷 美 智 子	
	武 落 合 洋	野 桐 悦 子	岩 本 澄 江 子	村 上 玲 子	
	阿 久 津 洋 子	藤 や す ゑ	二 重 作 妙 子	保 坂 英 雄	

